

第4回理事会(臨時) 議事概要

1 開催日時 令和5年7月19日(水) 15時00分～16時50分

2 開催場所 Japan Sport Olympic Square 14階 岸清一メモリアルルーム(東京都・新宿区)
次の役員は、自宅や職場、出張先からWeb会議システム(インターネット回線を使用した音声と映像を伝達するシステム)により参加すると同時に適時的確な意見表明が互いのできる状態となっていることを確認した。

小谷実可子	栗原美津枝	鈴木大地
土肥美智子	來田享子	渡邊守成
工藤陽子	塗師純子	

3 出席者 理事総数 30名

出席理事 30名(代表理事を含む。)

会長	山下泰裕	副会長	酒井邦彦
副会長	三屋裕子		
副会長	横井裕		
専務理事	尾縣貢		
常務理事	北野貴裕	常務理事	小谷実可子
常務理事	星香里		
理事	荒木絵里香	理事	伊東秀仁
理事	岩渕健輔	理事	遠藤利明
理事	太田雄貴	理事	岡本友章
理事	栗原美津枝	理事	杉山文野
理事	鈴木大地	理事	須藤実和
理事	田口亜希	理事	谷本歩実
理事	土肥美智子	理事	原田雅彦
理事	服部道子	理事	古谷利彦
理事	松田丈志	理事	水鳥寿思
理事	村井満	理事	八木由里
理事	來田享子	理事	渡邊守成
監事総数	3名		
出席監事	3名		
監事	工藤陽子	監事	寺田昌弘
監事	塗師純子		

4 議事の経過の要領及びその結果

冒頭、山下会長より以下の発言があった。7月28日から成都FISUゲームズ、8月16日からはウランバートル東アジアユース競技大会、9月23日からは杭州アジア大会が開催される。また、各競技の国際大会も開催される。パリ2024大会まであと1年となり、現地では、テストイベントや開会式の予行練習も実施されている。7月26日の1年前イベントには、オリンピックを開催したNOCの代表として招待されている。新体制でも対話を大切にしていきたいと考えており、アスリートやNFの視点からでも、積極的にご意見いただきたい。

また、日本水泳連盟会長でもある鈴木理事から、世界水泳選手権2023福岡大会の日本選手の現段階の成績等の報告があった。

5 議 案

(1) JOC 組織機構と役職者の選任について

- ・6月29日開催の第3回理事会で「選手強化本部、オリンピック・ムーブメント事業本部、日本ユニバーシアード委員会、各種専門委員会及び関係専門部会の役職者は、業務執行理事と協議の上、理事会で提案する、としたことから、7月12日開催の常務理事会で協議した。
- ・令和3,4年度は組織機構の大幅な変更を行ったため、令和5,6年度は、この体制による2期目の活動として、事業の継続性を優先し、以下の通りとする。

○選手強化本部

本部長 尾縣貢

副本部長 伊東秀仁^①、岩渕健輔^②、土肥美智子^③、古谷利彦^④

○選手強化事業専門部会

部会長 伊東秀仁

副部会長 岩渕健輔、土肥美智子、原田雅彦、水鳥寿思

○情報・医・科学専門部会長

部会長 土肥美智子

副部会長 杉田正明

○ナショナルトレーニングセンター専門部会

部会長 岩渕健輔

副部会長 水鳥寿思、田口亜希、服部道子

○アンチ・ドーピング専門部会

部会長 古谷利彦

副部会長 谷本歩実

○オリンピック・ムーブメント事業本部

本部長 小谷実可子

副本部長 栗原美津枝^①、太田雄貴^②、谷本歩実^③

○オリンピック・ムーブメント事業専門部会

部会長 栗原美津枝

副部会長 原田雅彦、來田享子

○アントラージュ専門部会

部会長 谷本歩実

副部会長 杉山文野、古谷利彦

○日本ユニバーシアード委員会

委員長 鈴木大地

副委員長 五十嵐久人

○倫理委員会

委員長 酒井邦彦

副委員長 八木由里^①、岡本友章^②

○加盟団体審査委員会

委員長 星香里

副委員長 岩渕健輔^①、須藤実和^②

○アスリート委員会

委員長 松田丈志

副委員長 荒木絵里香、羽根田卓也

○国際委員会

委員長 横井裕

副委員長 鈴木大地^①、太田雄貴^②

○利益相反マネジメント委員会

委員長 酒井邦彦

副委員長 須藤実和

※氏名の後ろの数字は規程による本部長・委員長の職務代行順位

- ・各委員及び専門部会員は、理事会にて選任するが、次回理事会が9月となることから、この間の事業を速やかに取り組む体制を整えるためにも、各委員及び専門部会員の人選は、会長、専務理事、各組織体の長にご一任を頂き、9月14日の開催の第5回理事会で報告したい。

【主な意見等】

・専務理事が選手強化本部長を兼任する事例はあまりない。競技力向上事業予算の分配において利益相反などの心配はないか。また、これは人材不足による一時的な措置か今後も容認していくものか。

⇒通常このような人事は行わないが、現状を踏まえ執行部で検討した結果、専務理事に選手強化本部長を兼任いただくこととした。望ましくない利益相反が起こらないよう管理していく。

・理事会は理事の職務執行を監督する立場であるが、一般企業でも執行役が取締役会のメンバーであることはよくあることであり、それ自体は利益相反とはならない。懸念点は、利益相反マネジメント委員会が管理していく。

【決議内容】

- ・選手強化本部、オリンピック・ムーブメント事業本部、日本ユニバーシアード委員会、各種専門委員会及び専門部会の役職者

(2)第2号議案 非常勤役員に対する報酬支給内規について

- ・非常勤役員の報酬は、役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程第5条で「非常勤の役員に対して、職務執行の対価として日当1万円を支給することができる」、同第11条に「この規定の実施に際し必要な事項は、会長が理事会の承認を得て、別に定めるものとする」としている。
- ・令和4年度までは、副会長、専務理事、常務理事等の業務執行理事に支給していたが、多くの役員の活動が増加し、1日に複数の本会会議に出席し、諸事業に意見をいただいている現状を鑑み、これらの活動に基づき、対価を支給したい。
- ・会議等に対する活動の対価であることから、ウェブ会議の出席者にも同様に支給。また、同日に複数の異なる会議に出席いただいた場合は、会議毎に支給するが、オブザーバーとしての出席の場合は支給の対象外とする。

【決議内容】

- ・非常勤役員に対する報酬支給内規

(3)第3号議案 国際総合競技大会関係について

- ・杭州アジア大会 TEAM JAPAN 団長及び副団長について、会長をはじめとする執行部で協議の結果、団長に尾縣貢専務理事、副団長に水鳥寿思理事・選手強化中長期戦略プロジェクトリーダー、井上康生パリ対策プロジェクトリーダーの両名を任命したい。
- ・現状の本部構成案は資料の通りであるが、本部役員若干名の追加も計画している。
- ・各競技の代表選手は、早めに発表をしたいという要望もあれば、ギリギリまでコンディションの良い選手を見極めたいので大会直前に発表したいという要望もあるため、オリンピック同様、競技団体から推薦名簿が提出され次第、必要な手続きを進め、会長・専務理事の決裁を得た上で、順次認定・発表を行いたい。
- ・旗手は、ジェンダー平等の観点から男女1名ずつを選定することをOCAから求められている。7月の成都 FISU ゲームズ同様、本大会においても主将は置かない。今年度の大会を通してトライアルし、パリ2024大会以降のTEAM JAPAN編成の在り方としてJOC内で横断的に検討し、本理事会に諮る。
- ・また、パリ2024 TEAM JAPAN 公式服装選定委員会の委員長について、役員改選にともない、星野前専務理事が退任したため、尾縣専務理事に変更したい。

【主な意見等】

- ・旗手などジェンダー平等を追求するのであれば、将来的には女性役員の育成もしていくべき。20年前の国際総合競技大会から TEAM JAPAN 本部における女性の比率は非常に低い。これを改善していくことを一つの方針として、人材育成を意識していただきたい。
- また、パリ 2024 大会 TEAM JAPAN 公式服装選定委員会については、どのような議論が行われ、どのような手順を踏んで公式服装が決定したか公表すべき。
- ⇒杭州アジア大会の TEAM JAPAN 本部は、女性数名の追加を調整している。また、パリ 2024 大会公式服装選定委員会は、議論がまとまった段階で公表する予定。

【決議内容】

- ・TEAM JAPAN 団長：尾縣貢
- ・TEAM JAPAN 副団長：水鳥寿思、井上康生
- ・TEAM JAPAN 選手団員認定、旗手選任の会長・専務理事への一任
- ・パリ 2024 TEAM JAPAN 公式服装選定委員会委員長：尾縣貢

(4)第 4 号議案 選手強化本部事業関係について

- ・JOC エリートアカデミー事業は 2008 年からレスリング、卓球の 2 競技で開始し、4 年ごとに事業の見直しを行いながら、現在第 4 次事業を実施している。現在では、6 競技団体が参画し、東京 2020 大会には 10 名のアカデミーOBOG が出場。金メダルを含む 5 つのメダルを獲得した。
- ・次年度の 2024 年 4 月より新しく第 5 次事業が開始となるため、令和 4 年 9 月から外部有識者を含む第 5 次事業検討会議を設置し、事業の検証と課題、在り方等について議論してきた。また、令和 5 年 4 月には本会加盟の夏季・冬季オリンピック実施競技団体に案内し、事業説明会を開催。16 競技団体が参加した。
- ・現在アカデミーに参画している 6 競技団体から企画書の提出があり、提示した 8 つの要件である、生活拠点、練習拠点、個人競技、戦略プラン、財源、運営・指導体制、修了生フォロー、自立運営のいずれの観点も明確に記載がされていた。
- ・第 5 次事業検討会議で委員に確認をいただき、当該 6 競技は参画可と判断された。
- ・各競技とも今後はこの夏に開催されるアンダーカテゴリーの大会を中心にスカウティングを実施し、10 月下旬には来期入校生を本会に推薦、本会では年内に 3 回のテスト・面接等を実施し、年明けに入校生を決定する。

【決議内容】

- ・JOC エリートアカデミー第 5 次事業の参画競技団体：
(公財)日本レスリング協会、(公財)日本卓球協会、(公社)日本フェンシング協会、
(公社)日本ライフル射撃協会、(公社)日本ローイング協会、(公社)全日本アーチェリー連盟

6 報告事項

(1) 国際総合競技大会関係について

1)FISU ワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都)

旗手には、体操男子の橋本大輝選手、陸上競技の山本亜美選手を選出。橋本選手は、東京 2020 大会体操競技で個人総合ならびに種目別で金メダルを獲得した体操界の若きエース。山本選手は、第 25 回アジア陸上競技選手権大会において、女子 400 メートルにて銅メダルを獲得した期待の選手。7 月 25 日に出発式を執り行い、TEAM JAPAN の一体感を高め、大会に臨む。

2)第 2 回東アジアユース競技大会(2023/ウランバートル)

旗手には、柔道の鏑木克優選手、テコンドーの岡本留佳選手を選出。鏑木選手は、2021 年第 52 回全国中学校柔道大会個人の部 90kg 級優勝の実績があり、岡本選手は 2022 世界テコンドージュニア選手権大会、2023WT 世界テコンドー選手権大会のキョルギ女子 46kg 級でいずれも 3 位入賞を果たしており、将来有望なジュニアアスリートである。

3)第2回 ANOC ワールドビーチゲームズ(2023/バリ)

7月4日にANOCより、レターで開催中止の通知があった。大会後に開催予定の第22回ANOC総会は延期となり、場所と日程は今後通知される予定。

(2) オリンピック・ムーブメント事業専門部会関係について

1)オリンピックコンサート 2023 開催報告

本年は、東京及び長野の2都市で開催した。6月30日の東京公演では、令和4年度JOCスポーツ賞の表彰を実施。対象となった10名のほか、JOCシンボルアスリートの渡部暁斗選手、パラアスリートの水田光夏選手の計12名が参加、約1,300人が来場。7月15日の長野公演は、長野1998冬季大会から25周年の節目として、ゆかりのあるアスリート4名が参加。第二部開始前には、長野1998冬季大会出場の荻原健司長野市長も登壇、862名が来場した。

2)JOM 新企画展及びパートナー企業との連携企画

パリ2024大会開会式1年前の7月26日から、「パリ2024大会1年前→杭州2022アジア競技大会」企画展を実施。「日本オリンピックミュージアム+（プラス）夏休み子ども企画シリーズ」は、JOCの中期計画に掲げる「ファン層拡大に向けたJOMにおけるパートナー企業・都市、各競技団体と連携した事業」の一環として昨年度から継続実施。今年度はTEAM JAPAN パートナー5社協力のもと、子どもたちがアスリートと一緒に学ぶ全5回のシリーズイベントとして開催。6月23日のオリンピックデーを記念し、「オリンピックデーウィーク 2023 in JOM」と題し、3名のオリンピックを招き、イベントを開催。また、6月23日にはTEAM JAPAN オフィシャルサポーターの東武タワースカイツリー株式会社の協力で、東京スカイツリーがオリンピックカラーにライティングされた。

(3) アスリート委員会関係について

6月23日のオリンピックデーに、日本オリンピックミュージアムにおいてハイブリッド形式でオリンピック研修会を開催。合計52名のオリンピックが出席。

(4) 国際委員会関係について

7月8日にタイのバンコクにおいて、第42回OCA総会が開催。会長選挙では2名の立候補者があり、事前から混沌とした情勢が続いていた。結果は、タラル氏が新会長に選出された。第20回アジア競技大会(2026/愛知・名古屋)の準備進捗報告も行われ、パリ32競技に加え、アジア5地域競技、組織委員会提案2競技（野球・ソフトボール、空手）、OCA提案2競技（スカッシュ、eスポーツ）の全41競技が正式に承認された。

(5) マーケティング関係について

TEAM JAPAN ゴールドパートナーとしては、4社目となるパートナーシップ契約を東京海上日動火災保険株式会社と締結した。同社は2009年より、JOCゴールドパートナーとして、オリンピックをはじめとする国際総合競技大会における日本代表選手団の海外旅行保険等でも長きに渡って協力いただいております。東京1964大会、札幌1972冬季大会、長野1998冬季大会、東京2020大会においても大会運営を支えていただいた。JOCジュニアオリンピックカップ水泳競技の支援を通じて、未来のスイマーの育成にも尽力されている。

(6) TEAM JAPAN SUMMER FEST について

TEAM JAPAN ソーシャル・アクションの一環として、パリ2024大会1年前のタイミングでTEAM JAPAN SUMMER FESTを実施する。パリ2024大会に向けて、TEAM JAPANの応援機運醸成を図るのはもちろんのこと、気候変動がスポーツに与える影響や、オリンピックが実践する環境保全活動にも触れ、スポーツ界として社会課題に取り組む姿勢を発信していく。

(7) 東京 2020 大会メモリアルデーイベントについて

東京 2020 大会の開会式が行われた 7 月 23 日に 2 周年のメモリアルデーとして、東京 2020 大会のレガシーを継承・発展を図ることを目的に、東京都主催、JOC、JPC 共催で、東京 2020 大会メモリアルデーイベントを実施する。

(8) 第 20 回アジア競技大会(2026/愛知・名古屋)大会進捗状況について

6 月 15 日開催の AINAGOC 理事会において、AINAGOC 選定競技として、野球/ソフトボール、空手道の 2 競技を決定し、OCA に提案した。OCA 総会では AINAGOC がプレゼンテーションを行い、競泳・飛込みの会場を東京アクアティックセンターへ、馬術競技の会場を JRA 馬事公苑に変更することを報告し了承された。

10 その他

- ・第 5 回理事会は 9 月 14 日(木)15 時から開催。

以上